

[50周年記念事業事務局] 経営計画書 (総括表)

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H23年度計画額 (単位:千円)		H23年度必要人工	
			H23年度計画額	内特定財源	職員	臨時職員
1	50周年記念事業	B	未定	未定	2.0	0.0
合 計			未定	未定	2.0	0.0

■特記事項

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	総務部 50 周年記念事業事務局	No.	1
事務事業名	50 周年記念事業		
総合計画 の体系	大分類	4	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	小分類	(1) (2)	参画と協働のまちづくりの推進と住民自治の確立。 地域に根付いた多様な住民活動等の促進。
事業目的	平成 24 年度に迎える町制 50 周年にあたり、記念事業の計画立案並びに記念事業の促進のため、4 者（町民、まちづくり団体、企業、行政）の連携により、後年へ続く取り組みをすることで、大口町の 50 年、とくに近年の実績を後世に残す。		
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記念事業の企画・立案 ・ 啓発活動 ・ 決定された記念事業の実施 ・ プロジェクトとの連絡・調整と会議運営 		
現在における課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進委員会の早期結成 ・ 記念事業の内容と推進母体の決定 ・ 住民、まちづくり団体、企業をいかに巻き込むか 		
平成 23 年度に向けた改善策等	住民、まちづくり団体、企業をいかに巻き込むかが大切であるので、啓発に力を入れ、50 周年の周知徹底を図るとともに、推進委員会を早期に立ち上げ、参画と協働の意識による 50 周年事業の組み立てを図る。また、プロジェクトチームとの連携を密にし、町内の意識付け並びに協力体制を確立する。		

■作業工程（平成 23 年度）

月	作業内容
4	公募したキャッチフレーズとロゴマークの発表。作品を活用した啓発活動の開始。
5	推進委員の決定と第 1 回の会議の開催（月 2 回程度の会議の開始）
～	プロジェクト会議（月 2 回）との調整
	補正予算要求
	啓発事業の立案と推進
11	24 年度行事の決定と当初予算要求
	引き続き、推進委員会及びプロジェクトで事業の計画、精査を行う。

□ 3 年間の目標

目 標	.					
	.					
項 目（単位）	H21 計画	H21 実績	H22 計画	H23 目標	H24 目標	H25 目標

□ 2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H 2 4	.
H 2 5	.

■事業コスト

		単位	H21 年度決算額	H22 年度当初予算額	H23 年度計画額
事業費		千円			
(内特定財源)		千円			
人工	職員	人工			2.0
	臨時職員	人工			0.0
	計	人工			2.0

■平成 23 年度 計画額の主な増減 (前年度比 20%以上又は 50 万円以上の増減について計上)

(単位：千円)

事業番号	節	科目名称	計画額 (増減額)	増減理由
合 計				

■平成 23 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考
合 計		

■特記事項

のどかな田園風景が広がる、私たちのまち大口町には、春の風物詩「五条川の桜」、世界で活躍する「多くの企業」、土地改良・区画整理事業などで整えられた「恵み多き大地」、そして参画と参加のまちづくりで培われた「協働の精神」があります。

「町民」、「まちづくり団体」、「企業」、「行政」のエネルギーを、尽きることのない「私たちのまちの宝」として結集し、町制施行半世紀（50 周年）という節目の年を、4 者が一体となり、夢を抱ける、心豊かなまちとして受け継がれるよう、さらなる発展のスタートとして位置付け、事業を展開していきます。

■改善策等に対する取組内容

(1) 町制50周年の周知、啓発

平成24年4月1日に町制が施行され50周年を迎えることを広く周知するため、ロゴマークとキャッチフレーズを決定し、封筒、FAX送信票、名札に使用、名刺や通知文書に活用してもらえるようフォームの作成、ロゴデータの提供などをするとともに、のぼり旗、卓上旗を作製して掲出した。

また、大口町NPO登録団体町民活動まかせてネットと協働で、東日本復興支援を兼ねたロゴ入りポロシャツの販売もした。

(2) 大口町制施行50周年記念事業推進委員会

50周年記念事業の企画運営を担う住民組織として、大口町制施行50周年記念事業推進委員会を平成23年9月1日に立ち上げた。同委員会では、月に2回の会議を開催し、50周年記念事業の組み立てを検討した。

その中で、町制施行日に町民手作りの記念式典挙行、そして、記念式典同日に大口町NPO登録団体町民活動まかせてネットと協働して、住民と共に大口町の50歳を祝うイベント「HAPPY パースディ！おおぐち」の開催に向けて、検討、準備した。

(3) 50周年記念事業プロジェクト

50周年記念事業プロジェクトでは、月2回程度の会議を通して、本町の足跡を記録し、顕彰するため活動を継続して行ってきた。

■評価

(1) 町制50周年の周知、啓発

町制50周年の周知、啓発は、概ね図ることができたと考えている。中でも、ロゴ入りポロシャツは約600着の受注があり、関係者中心ではあるが多くの方に協力を頂けた。

(2) 大口町制施行50周年記念事業推進委員会

50周年記念事業として最初の事業となる記念式典及びHAPPY パースディ！おおぐち事業は関係団体との協働で作りが上がることができたと感じている。

そして、まちづくり団体間、まちづくり団体と企業等との橋渡しができたことにより、新しい交流にも期待している。特にHAPPY パースディ！おおぐち事業は「桜のまちおおぐち」の春の交流イベントとしての継続が期待される。

同委員会委員は、公募により選任し、50周年記念事業を共に企画運営してきた。しかし、同委員会と事務局の立場、意識の違いにより、会議が停滞する場面もあった。こうした、事務局としての調整機能、スケジュール管理に対する課題を率直に捉え、同委員会委員、住民が活動しやすい環境づくりや情報提供ができるように努力したい。